

「たった一言」で

岐阜市立本荘中学校 3年

武藤 陽菜

「かわりたくない」

私はかつて、こんなことを、まだ話したこともない初対面の人に対して思ってしまったことがあります。

その子は、中国の女の子でした。

中学校1年生の時、私が以前から通っていた習い事の教室でのことです。ある日、中国の女の子が、習い事の教室に入ってきました。

当時の私は、あまり良いイメージを持てない中国のニュースを見聞きする中で、「中国の人」というだけで、悪い印象を抱いていました。

これが、いわゆる「偏見」。そうわかっていても、当時の自分の気持ちは何ともできませんでした。

そんな自分の気持ちが変わったのは、その女の子の一言でした。

「これから、よろしくね。」

その女の子は、笑顔でやさしく話しかけてくれました。

このたった一言で、私はそのこと仲良くなることができました。

同時に私が考えたのは、私が以前抱いていた思いは、「偏見」なのだと思います。「偏見」という言葉を辞書で調べてみると、「事実上の根拠がなく、人や集団に対して抱く偏った見方」と書いてありました。

私は、自分が見聞きした中国に関するニュースで、「その女の子も同じではないか」という偏った見方をしていたのだと考えました。

この出来事から、私は、自分の中で、勝手なイメージをつくり、そのイメージをその人にあてはめて、人を傷つけているのではないかと考えるようになりました。

以前の私と同じく、日本人は、中国の人に対して、あまり良い印象を持っていないように私は感じます。

例えば、世界的に流行している「新型コロナウイルス」は、中国で最初に流行しました。

このことから、ネットでは、「中国人が悪い」「中国人のせいだ」というコメントをする人をたくさん見かけます。

しかし、中国の人が全員悪いわけではないと思います。

例えば、日本が中国にマスクを寄付すると、その後、何倍にもなってマスクが寄付されたというネットニュースを見ました。これは、日本が助けた分、中国から恩返しを受けているのだと思いました。

それなのに、ネットの書き込みをみると、「いまさら」といったマイナスの書き込みを目にすることがあります。

私はこの書き込みに違和感を持ちます。「ありがとうなのでは？」と。

「いまさら」という言葉には、「感染を広げておいて、いまさらもらっても」という意味があるのではないかと思います。

つまり、悪い部分ばかりに目を向けて、マスクを送ってくださった人の気持ちは考えてないのではないかと思ったのです。

そう思うと、かつての私もそうでした。あまり良いイメージのないニュースで、中国のすべての方に対して、マイナスの印象をもっていった私。

そんな私ですが、かつて中国の女の子が私にかけてくれたような一言、その「たった一言」を大切にしよう考えるようになりました。

それは、「ありがとう」と「ごめんなさい」です。

マスクをもらえたのなら、「ありがとう」と素直に言葉にしたい。かつて自分が中国の女の子に抱いていた「偏見」のように、自分が間違っていたら、「ごめんなさい」と言葉にしたい。

この「たった一言」で、かつて私が中国の女の子の一言で、自分の心が変わったように、「偏見」は少しずつなくなっていく気がします。

「たった一言」を。

素直に言える私でいたいです。